

新潟五十嵐会について

新潟五十嵐会については渡邊代表より『これからは学部には捉われない全学的活動をするので人文・法・経済学部同窓会よりの資金助成は必要としない。この事を令和2年4月の常任理事会に報告し、理事会、総会の承認を以って離れる』との報告が有りました。令和2年度の理事会及び総会の中止に伴い、「青松69号」の誌上で経過説明・報告に代える事で常任理事会メンバー全員に了承されておりますのでここに改めて青松誌面を掲載します。

新潟五十嵐会活動ご報告

新潟五十嵐会創設者

S56年・法卒 渡邊 信子

新潟五十嵐会の未来予想図

新潟五十嵐会の始まり、それは人文法経済学部同窓会総会において「若手の会、新潟五十嵐会を立ち上げます！」と宣言したところからです。そして10年目、新しいスタートをすることとなりました。その当時すでに首都圏において首都圏五十嵐会として若手の会は活動の実績がありました。新潟でもとの思いでした。特に新潟には同窓生が大勢いるのに繋がっていないことがとても残念だということが発足の理由でした。「つながれ、ひろがれ！新潟大学同窓生の輪」というスローガンのもと継続して毎月顔を合わせて語り合う会を開いてきました。しかしながら・・・コロナ禍により方向転換を強いられているのが現状です。

同窓会という存在自体の未来を考えてみたいと思います。そもそも今後どんな風に変貌を遂げていくのか、何が正解なのかと模索していました。そんな中、新型コロナウイルス感染症の拡大により、突如、世界は様変わりしました。常識が否応なく変化しました。いわゆるニューノーマル、3密、密閉、密集、密接を避けることが必須となりました。顔を合わせて旧交を温め合うという形態はどうなっていくのでしょうか。オンラインでの会に以降していくのか？そのためには名簿をデータで管理していくこと、そしてWeb環境および情報が要ります。

同窓生との関わり方、さらには就職活動も変わっています。同窓会に関して、Web検索をしました。ゼロミツ同窓会プランを発見。幹事の代行、ドタキャン負担なし、感染症対策も万全、マスク等、キャッシュレス支払い、オンラインでの参加等々、事前準備もすべてお任せという内容です。しかしながら、案内状の発送には名簿が必要となります。また、出欠管理は？ここまでは、外的な形式のみです。では、活動の中身はどうしていくのか。今後の議論が必要であると考えています。

就職活動については、すでに内定取消しが発生しています。アフターコロナにおいては、消滅していく業種もあります。そのような状況で悩んでいる、迷いあぐねている学生たち、若い同窓生たちに向けてできることがあるのではないかと考えています。また、アルバイトが無くなり途方に暮れている学生のことも見聞します。2020.7.19新潟日報30面の記事「感染禍バイト先失った女子大生、学費のために風俗業」は同じ女性である私にとっては衝撃的な内容でした。同窓会にできることを新たに創造していく時期です。それは今です。